

巻頭言「昨年印象に残った2つの出来事」 宮永和夫……1
若年認知症専門員の活動報告、公開講座のご報告……2
専門員研修のご報告、フォローアップ研修のご報告……3
事例でまなぶ若年認知症、今後の研修の案内……4

昨年 印象に残った2つの出来事 宮永 和夫

明けましておめでとうございます。今年も宜しくお願いいたします。認知症に関係した出来事で、ぜひ知っていただきたいニュースを二つまとめてみました。

●認知症基本法のこと

昨年6月に制定され、今年の1月より施行されます。下の1から6にまとめたように、認知症にはまだ根治薬がないために、偏見や差別が生まれやすいのですが、共に生活する社会を目指し、予防や早期診断、根治薬の研究推進、学校教育や社会教育での偏見是正を推進しようとしています。そして、その基本には、本人と家族の意向を尊重し、その人たちの尊厳と共生社会を実現するための法律であること、それを支援するのは、国、地方公共団体、そして認知症を理解した国民一人一人であるべきとしています。大切な法律ですので、是非覚えておいて活用しましょう。

1. 認知症基本法 ⇒ **本人と家族の意向の尊重の理念と、国・地方・国民それぞれの責務**
2. 実態 **認知症の生涯発症リスク 55% (男 41% 女 65%)**
3. 特徴 難治疾患で、根治薬がないために、偏見、差別・排除が生じる
⇒ **「尊厳、共に生きる」という共生社会の提案**
4. 現時点の現実的な対策 ⇒ **予防や早期診断が推奨**される
5. 病気による経済困窮 ⇒ **疾患と就労の両立**を目指す対策
6. 偏見対応 ⇒ 国民の理解を深めるために、**学校教育・社会教育**で学習、偏見是正

●若年認知症フォーラム in 福岡のこと

全国若年認知症家族会・支援者連絡協議会主催の第14回若年認知症フォーラムは令和5年11月19日に福岡市認知症フレンドリーセンターで対面とオンラインのハイブリッド方式で開催されました。福岡県・福岡市などの多くの関係者の後援を得るとともに、内田先生を中心にした実行委員会の皆さんの創造力と団結力で無事成功、いや大成功で終了したと思います。講演内容は、厚労省

老健局中西氏による認知症基本法を含む国の認知症施策(スライドのみで、残念ながら先生の映像が放映できませんでした)、実行委員長の内田先生を中心とした福岡の認知症支援ツールの開発状況(認知症フレンドリーテック、「ハッカーソンから生まれたプロダクト」)、そして認知症の本人たちの日常生活でのアプリの能動的な活用の報告(シンポジウム「当事者の工夫をつなぐテクノロジー」)でした。この最後のシンポジウムの中で、認知症の本人、ここでは丹野さんと中山さんですが、他から押し付けられるのではなく、自ら率先して種々のアプリを日常生活の中に利用しているという現実を身近で見聞きする機会を得たことで、ICTによる認知症の日常生活レベルへの支援の可能性を過小評価していた自分を大いに猛省しました。今後の新しい認知症支援のツールとして、個々人に合ったIOTづくりの必要性を強く感じることができた、非常に実りある内容だったと思います。



なお、参加者については、直接会場に参加した人は40名、ZOOM視聴者は162名、コロナ以前のフォーラムに比較して、参加者が減少したように思います(但し、全国協議会自体の加盟団体は逆に増えているので理由は不明)。今までのフォーラムも一つ一つが意義を持った会でしたが、今回のフォーラムの内容もじっくりと見ていただければすごく価値があるように思います(決して手前味噌ではありません)。是非、会員限定ではありますが、協議会のホームページから再生できるように働きかけたいと思っていますので、見逃された方は是非ご覧頂ければと思っています。

「若年認知症専門員」の活動報告



多良間 真高さん

令和5年に、第12期若年認知症専門員認定研修を受講しました。

受講のきっかけは、自分自身が作業療法士の資格を活かし認知症カフェや子どもの居場所事業、地域包括支援センターに従事していました。

その中でも若年認知症の方の居場所がなく

割と高齢の方が多くデイサービスや就労支援事業などに通所するも継続利用が難しく自宅に引きこもりがちになると聞きました。その背景には若年認知症の方の病状理解や関わり方、接し方が不十分なスタッフも多くもっと専門的知識をもった居場所で主体的に当事者の方達が活動できる場がないかと思い、そのタイミングで休眠預金事業の助成金受託が決まり若年認知症の方の居場所づくりを開所するにあたり専門的知識の理解、全国の方とのネットワークづくりを通して学びの場や情報交換・共有ができるのではないかと思います受講しました。

受講前より認知症普及・啓発活動の一環で市内のコミュニティーラジオにて放送をし、認知症の理解や併発活動を4年行っています。また、企業

の方などにもゲスト出演頂き、認知症について学びながら、企業の紹介や必要に応じて企業に出向き認知症サポーター養成講座の開催等も実施しています。受講後より本格的に若年認知症の居場所づくりの準備に取り掛かっており、令和5年1月からの開所予定となっています。まずは、沖縄県の若年性認知症コーディネーターの方とタイアップしながら当事者の方との事前面談やご家族との面談をしながらなるべくニーズに合った居場所の形づくりの模索を始めました。

当事者の方や家族と話す中で、「認知症カフェはわかるけど足が向かない」などの意見も聞かれ、他の若年認知症の方と当事者や家族の方と話しがしてみたいなど、居場所だけでなく家族会のような集いの場も必要なことがわかり、若年認知症カフェと家族会を同時に立ち上げる方向で進めています。令和5年1月開所の居場所については、現状2名の当事者とボランティアで2名にて開所予定となっています。具体的には、畑作業、コーヒーの袋詰め、冷凍自販機の納品作業等を予定しており、色々な企業様からのお仕事依頼などもあり当事者の方と汗をかきながら楽しみながら沖縄の方言「よんな～よんな～(ゆっくりゆっくり)」しながら今後活動していきたいと思っております

【第12期 多良間真高氏

合同会社 GreenStarOKINAWA】

2023年度 公開講座 報告

2023年度公開講座は「予防と共生社会が描く未来～認知症基本法に向けて」と題し、7月8日にハイブリッド形式で開催されました(会場：友愛会館)。第一部は「予防」への視座として、宮永理事長よりアンチエイジングに関する最新の知見をお話いただきました。老化とはどのような現象かを生物学的に確認しながら、人間の老化に対する介入の可能性を学びました。第二部は木舟理事を司会に、成立間もない認知症基本法を精読してご本人・ご家族の生活、支援者の役割に与えるインパクトを検討しました。第三部は「共生社会」への展望として、若年性認知症と就労継続支援を採り上げました。順天堂東京江東高齢者医療センター・柴田展人先生をお招きし、豊かな産業医経験に基づいた、貴重なご講演をいただきました。

若年性認知症への理解を企業で日頃から高めておく大切さ、企業と支援者は異なる立場でご本人を眺めていることの気づき、心理検査が職場での能力と同じでないことへの注意等、企業と支援者の連携において求められる視点が親しみやすく、かつ鮮やかに描き出されました。全三部を通じて、予防と共生は「両輪」とされますが、お互いが深く繋がっていると認識できました。

(文責：厚東)



4年ぶり対面研修実施!! 第13期若年認知症支援専門員研修 報告

2023年度の第14回「若年認知症専門員」認定研修が、10月21、22日と11月25、26日の4日間で開催され、受講者10名が「若年認知症専門員」として研修を修了しました。

本年度の研修は、10月の2日間をオンライン開催とし、講義中心のプログラムで実施し、11月の2日間は、友愛会館を研修会場に研修を行い、模擬事例によるグループワーク演習を中心に研修を実施しました。2020年からのコロナ禍のため、2020年から2022年は、すべてオンラインによる研修実施となっており、対面による研修は実に4年ぶりとなりました。

今回の受講者は10名と少なめでしたが、障害福祉分野、認知症疾患医療センターなど医療分野、小規模多機能型居宅介護など高齢福祉分野からの



参加がありました。11月の対面による研修は、事例演習を中心とし、事例のアセスメントから事例の理解の深め方、不足する情報の整理と収集の仕方、それをもとにアセスメントをさらにやり、どのような社会資源を活用したりしながら支援をしていくかをグループワークで検討しました。参加者の背景の多様さは、まさに多職種連携の学習にもなっていました。参加者は少なかつたですが、研修自体は熱気のあるものでした。どのような社会資源を活用したりしながら支援をしていくかをグループワークで検討した。

受講者の声として、前半のオンライン研修は、講義中心で情報量が多く、それについていくのが精いっぱい、後半の対面研修に参加することに不安を感じていた。しかし、対面による交流は、その不安を解消して安心して受講できたと述べられていた。主催者側のわれわれも、4年ぶりの対面研修で、オンライン研修では得られない受講者とのやり取りと、同じ場を共有し実施する事例演習の醍醐味を改めて感じる事が出来た研修でした。

(文責:小野寺)

2023年度フォローアップ研修 報告

今年度のフォローアップ研修は、7月8日(土)に会場とオンラインでのハイブリッド形式にて開催しました。開催にあたり、事前に皆様よりご意見をいただき、テーマは「視空間認知障害が前景に立つ若年性アルツハイマー病の一例」、宮永理事長からの講義「認知症と高次脳機能障害との違い」を内容とし研修が行われました。視空間認知障害というやや稀な障害があらわれている貴重な事例についての知識が深められました。また、「認知症と高次脳機能障害との違い」については、これま

での認知症と高次脳機能障害をとりまく制度などの変遷や、医学的な解説により、両者の違いについての理解が深まりました。

フォローアップ研修では、専門員19名の参加があり、活発な意見交換と深い話し合いが行われました。今後は今回の改善点を考慮し、より多くの方に参加していただけるように工夫してまいります。2024年度のフォローアップ研修は、7月20日(土)に対面で開催予定です。

皆様のご参加をお待ちしております!

研修:「事例でまなぶ若年認知症」について

2021年にスタートした事例研修会「事例でまなぶ若年認知症」は早いもので、今年で三年目を迎えました。この研修は当センターの柱となる二つの研修会、基礎研修と専門員研修の間をつなぐ位置づけにあります。基礎的な知識を現場での支援へと活かすために、講師が実際に経験した事例を題材にして、アセスメントや方針の見定めから、具体的な資源の導入に至るまで、総合的な検討を行う研修会を目指しています。

本年度第1回「非典型的なアルツハイマー病（担当：厚東）」は2023年6月17日に開催され、参加者は計17名でした。若年性に多い非典型的なアルツハイマー病の症状を、脳の障害部位から理解することを目指した内容でした。受講者からは、脳科学の知識をケアの場面に活かす視点を学ぶことができた等の声が聞かれました。

第2回「認知症と高次脳機能障害（担当：宮永）」は同年9月16日に開催され、参加者は計22名でした。認知症と高次脳機能障害の違いを分かりやすく整理して、第1回に続いて脳の部位ごとの機能や脳のネットワークを学びました。また高次脳機能障害と介護保険の関係等、社会的な課題についても知識を深めました。受講者からは、難解な高次脳機能障害が事例を通じて具体的にイメージできた等の感想をいただきました。本年度の最終回、第3回「認知症とスピリチュアリティ（担当：勝野）」は、2024年1月20日に開催します。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

（文責：厚東）

今後の研修案内

各研修の詳細はHPでご確認ください！

★2023年度 事例研修会

「事例でまなぶ若年認知症」第三回

日 程：2024年1月20日（土） 認知症とスピリチュアリティ 勝野とわ子

時 間：14:00～15:30 オンライン開催

参加費：一般 3,000円 1回

会員・若年認知症専門員 2,000円 1回

★2023年度 基礎研修

「診断のあとさき、続いてゆく暮らしと仕事」

若年性認知症についての基礎的な研修です！

日 程：2024年3月16日（土）

時 間：14:00～15:30 オンライン開催

参加費：会員・若年認知症専門員参加 2,000円 学生 1,000円 一般 3,000円

【編集後記】2024年の年が明け、すぐに震災や飛行機事故など心が痛むニュースが飛び込んでまいりました。被災された方におかれましては、謹んでお見舞い申し上げます。特に被災地で、認知症やご病気を抱えていらっしゃる方々やそのご家族の方がどのように過ごされているか心配なところです。少しでも早く支援が行き渡り、心が安らぐ時が来ることをお祈りしております。本年も宜しく願い申し上げます。

特定非営利活動法人若年認知症サポートセンター 事務局

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-9-4 中公ビル御苑グリーンハイツ 605号

TEL:03-5919-4186 FAX: 03-6380-5100

メール: info@jn-support.com ホームページ URL: <http://jn-support.com/>

第22号 2024年1月20日発行【発行責任者】宮永 和夫 【編集責任者】遠藤 百合子